

---

夏休み公式ホームページ事務局最期のお知らせ【完結】  
ネアンデルタール家元

---

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

## 注意事項

このPDFファイルは「暁々小説投稿サイト」で掲載中の小説を「暁々小説投稿サイト」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁々小説投稿サイト」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏休み公式ホームページ事務局最期のお知らせ【完結】

### 【作者名】

ネアンデルタール家元

### 【あらすじ】

夏休み中止のお知らせが夏休み公式にホームページ掲載された。海に山に川に洗濯に芝刈りに鬼ヶ島に桃太郎退治にせっかくのレジヤーを楽しみにしていた子供たちががっかりした。「この燦燦と夏のクソ熱太陽が降り注ぐ南国の雪国にかまくら遊びは可哀想だろう」鎌倉のご当地ヒーロー湘南江の島仮面が立ち上がった。

「湘南江の島に冬のスポーツはないぞ。はーっはっはー！」

南国江の島仮面は夏休み公式ホームページを倒すために太陽の王国へ旅立った

戦慄！夏休み公式ホームページ事務局のたたり

夏休み中止のお知らせが夏休み公式にホームページ掲載された。海に山に川に洗濯に芝刈りに鬼ヶ島に桃太郎退治にせっかくのレジャーを楽しみにしていた子供たちががっかりした。「この燦燦と夏のクソ熱太陽が降り注ぐ南国の雪国にかまくら遊びは可哀想だろう」鎌倉のご当地ヒーロー湘南江の島仮面が立ち上がった。

「湘南江の島に冬のスポーツはないぞ。はーっはっは！」

南国江の島仮面は夏休み公式ホームページを倒すために太陽の王国へ旅立った。しかし夏休み公式ホームページは子供たちの健やかな成長と健全なる精神の育成を願って夏休みの中止を決定したのだ。正義の侮辱は許さない。

夏休み公式ホームページ事務局は表現の自由戦士、フェミニスト集団、PTA父兄一同、ご長寿クラブ、大阪のおばちゃんたちを召喚して湘南江の島仮面を待ち受ける。

バアン！夏休み公式ホームページ事務局の扉が蹴り壊された。「湘南江の島仮面参上！」

子供たちに見せられる最後の夏の日までがんばれよ」

フェミニスト集団の新たな姿を見た。

「なんで、何があって、お前が俺のこと呼ぶんだよ！お前がヒーローなんだ！」

「お前がヒーローなんか言うなよ！」

「お前がお前をヒーローって呼ぶんだよ！」

これが『これまで』の湘南江の島仮面の真実だった。

夏休みの閉まりかけのホームページは湘南江の島を映し取った。子

供たちは、この夏休みの最後の一日を忘れないよう、今までの「お前のヒーロー」という呼び方に耐えなくてはならないと分かって、新日本プロレスを「お前のヒーロー」と呼ぶことに。

「『俺の『俺』は、このヒーローだけど、決してヒーローなんかじゃない！」「ヒーローでありたい俺の夢はファイアーエムブレムだ！」「湘南江の島には「湘南のヒーロー」が一人ずついた。」

「おい！」

お父さんたち、お母さんたち、そしてね！新日本プロレスの「俺のヒーロー」、ここまで来たよ！

湘南のヒーローの中にはフェミニスト集団の仲間もついていた！俺たちだけの秘密を解き放つために！お前たちと一緒にフェミニスト連合軍（自称、フェミニストの集団）として、『俺たち』だけの特別プロレスをやりたい、お前たちだけのプロレスをやりたいと願って、これからずっと練習を続けるんだ、もう誰も俺たちに口を開かないでくれ！

お前たちに俺たちがやっていたことは見せても何も感じさせない『俺たちのための特別プロレス』をしようぜ、お前たちのプロレスが俺に感じさせるプロレスだったらどう思う？

湘南江の島にはファミリープロレスが待っている。しかし、ファミリーのプロレスが待っているわけじゃない、俺のヒーローたちが闘うんだ、俺たちのために闘うんだ！待っているよ！絶対に、あのヒーロー（南の島の「お前たち」）を倒して俺たちのプロレスは終わるぜ！

「黙って聞いてりゃ調子に乗りやがってザマス！」

フェミニスト集団はうんざりだ。仲間だの友情だの結束だの助け合いだの思いやりだの絆だの、どれもこれも大人の偽善だ。子供たちを都合よく管理したいために規律や結束を教育しているのだ。

従順に一から十まで言うことを聴いてくれれば楽ちんだ。そうやって操縦しやすい大人に育ってくれば社会はずいぶんと風通しがよくなって生きやすくなる。犯罪も貧困もなくなるだろう。

そのような一方的で身勝手な価値観を植え付けられて子供は純粋さを捨て社会に幻滅し大人の階段をあがっていく。しかし世の中はきれいごとが通じるとは限らない。割り切れない、腑に落ちないそんな苦い経験を何度も味わった末にピュアな作品や風景に心をあらわれ童心に帰る。

悟りを開いた、目からうろこが落ちた、生き方が変わった。すっかり垢ぬけた大人たちでさえ翌日はパワハラ上司にシバキ倒されたり傍若無人なクレマーにボロカスに言われてせっかく澄んだ心がささくれていく。そのような清濁併せ呑む依存症社会に中毒した人々が夏休み公式ホームページ事務局を立ち上げた。その経緯を湘南江の島仮面は知らないからたちが悪い。

「かかってこい！ポリコレおぼはん」

湘南江の島仮面が煽った。それから三分もしないうちに夏休み公式ホームページ事務局は爆発炎上した。

「た：たすけて」

めらめらと溶け堕ちていくガラス窓に事務局員の苦悶の表情がいくつも浮かぶ。

「あーもしもし？湘南江の島消防署ですか？」

湘南江の島仮面は被害者ヅラをして消防車の出動を要請した。

「これはひどい…」

。お疲れ様です。それでそこからこうなりました」

電話で事務局員の言葉を聞いて湘南江の島仮面は顔をしかめた。

「え、なになに？俺もう…、そういえば何か事故が起きたって」

「それでお電話が繋がって」

湘南江の島仮面は「あー、うん…」と話して電話が終わった。

「あー、そうそう。実は、湘南江の島消防署に不審なエンブレムが来たんだって？」

「それでお知らせがあつて。それに何か事件があつたとか。ちょっとした事件らしいんだけど」

「その犯人は？」

「わからん。わからないんだ」

「わからんってもしかして、被害者の中に犯人がいるの？」

湘南江の島仮面は事務局員の顔に「ちょっと待ってくれるかな？」と聞こえないように耳打ちする。

「今話した、多分だけれど」

「あ！わかった！」

湘南江の島仮面は、電話をつないだ時に湘南江の島を思い出して「そうそう、そのお嬢ちゃんところに…」と続けると電話を切った。そう、「わかった」と言われるとわかる。被害者に紛れるように出る正体不明の犯人。それが、お嬢ちゃんだ。

……

「と、このような経緯がありましたね。お値段はぐっと下げさせていただけます」

不動産王の治郎吉江の島支店長は汗をふきふき説明した。

焼け焦げて柱と梁だけになった事務局跡。遺体が綺麗に片づけられたというが瓦礫はそのままだ。

土地の権利は数奇な運命を経て湘南の某ペーパーカンパニーの名義になっている。

不動産王の治郎吉はこのような瑕疵物件を高値で転売していた。

「出るんですか？」

借り手の男はそっと耳打ちした。

「出るんですよ。死んだ事務局関係者と湘南江の島仮面がね…」  
支店長は声を潜めた。

「どっ、どっという風に」

男は興味津々だ。職業がユーチューバーだからだ。事故物件に居住して実況中継を生業にしている。

「こういう風にね！」

不動産王の治郎吉支店長の顔がどろりと溶けた。

「ひいっ！もっともっと」

借り手はマゾヒストらしく嬉しそうに怖がる。しかしひいっ！と白目を剥いた。そのまま後ろに転倒しゴシヤーッと脳漿を散らした。たちまちダーッと鮮血が地面に広がる。しかし支店長は微動だにしない。

「お前で13人目だ。ここの物件を興味本位で借りに来た奴は。だがそれはお前の自己正義だからな」

遺体の横に壊れたドローンが横たわっている。アウェープロ製カメラが搭載されており、サブモニターにテロップの滝が流れている。

「どうしたー？」 「音声途切れたけど？」 「中継サーバーダウン？」

「主、死んだの？」 「熱中症？」

視聴者が次から次へとコメントを書き込んでいた。

「公式にはお前の熱中症死として処理されるだろう。お前は何もしないパブリックエネミーを探し求め

さまよい歩いて自然の摂理に負けて死んでいくんだ。湘南に人間の正義などありはしない。あるのは自然の恵みだ」

そういうと支店長はゆらゆらとかき消すようにいなくなった。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
[http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel\\_id~26075](http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~26075)

---

夏休み公式ホームページ事務局最期のお知らせ【完結】  
2021年08月10日 10時03分発行